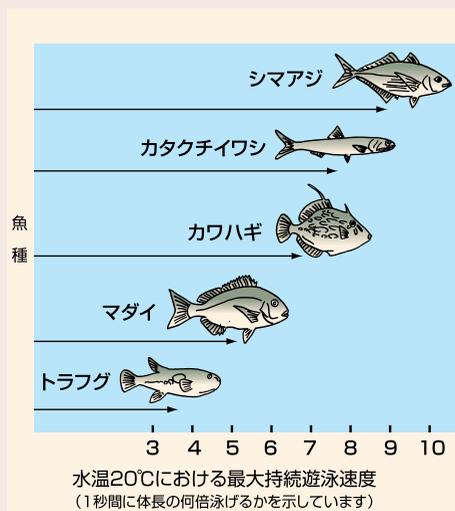


# 魚の遊泳能力と温度

海生研で遊泳能力測定装置を用いて何種もの魚(体長7.8~16.9 cmの幼魚)について水温を変えた時の最大持続遊泳速度(60分間完泳出来る最大流速)を測定しました。下の図は20℃の時それぞれの魚が毎秒体長の何倍泳げるかを示しています。



かいせいけん

# 海の豆知識

Vol.5

??? 魚のことわざ ???  
〈その4〉



財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査機関として、環境庁、農林省(当時)、通商産業省の共管の下で、昭和50年に設立されました。

これまで「大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明」「取放水域の環境調和技術の開発」「原子力発電所等周辺海域の海洋放射能調査」等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第5号

平成12年9月1日 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3丁目29番地 帝国書院ビル5階

電話 03-5210-5961/FAX 03-5210-5960

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

財団法人 海洋生物環境研究所

# 魚のことわざ

〈その4〉

## —シロサケ—



サケ、アキアジ等と呼ばれるシロサケは河川に遡るため捕獲しやすく重要な蛋白資源であり、マスと共に古来なじみ深い魚でありました。明治以後の乱獲や産業開発による河川の荒廃で親魚が上流の産卵水域へ到達出来ないため急速に減少しましたが、百年にわたる増殖技術開発が成功して、現在では毎年約20億尾放流した稚魚が6~8千万尾の親魚となって回帰し、重要な国民食糧となっています。

1

### 『鮭は銚子限り』

「西海に鮭なく東海に真魚鯉(マナガツオ)なし」。サケは寒流系の魚、マナガツオは暖流系の魚。サケが産卵のため遡る川の太平洋側の南限は、一応、利根川(銚子)とされてきた。サケ・マスの回帰性(成熟してから産卵のため生まれた川に帰ってくる習性=母川回帰)は古くから知られ、この習性を利用して人工採卵孵化放流事業が進み、日本では明治初期以来行われてきた。

2

### 『鮭になるか鱒になるか』

蛙が、わが子の成長過程を見守りながら、親の欲目で、やがてどんな立派な鮭になるか、それとも、尊い鱒になるか、と楽しみにしている。だが、日を追って尾は退化し、ヒレならぬ手足が出て来て親の姿と同じ蛙になってしまう。転じて、子の成長(将来)に過大な期待を抱くことの例え<青森五戸語彙>

3

### 『鮭の洲走り瀧登り』

鮭缶や荒巻鮭のポスターに、サケがオーロラや氷山をバックに跳躍している雄大なものがある。その絵のように、川に遡上したサケは種族の繁栄を希求し、その本能が推進力となって、前途を拒むあらゆる障害に立ち向かい、浅瀬は体を寝かせて平を打ち、中州や砂州は飛ぶように走り抜け、急流はものともせず、少々の瀧や堰はジャンプして越える。それは涙ぐましいまでの光景で、「鯉の瀧登り」など足下にも及ばない。

4

### 『鮭の豊漁の年は大根の不作』

サケ・マスは寒流系の魚。従って、田畑に冷害をもたらすような涼しい年は豊漁となるが、涼し過ぎて秋大根さえ不作になるという<新潟地方の言葉>。